

# 生駒市郷土資料館新設準備検討懇話会報告書概要版

## 1. 郷土資料館新設までの経緯

- (1) 現在までの経過
- (2) 生駒市の財政事情
- (3) 市所蔵資料保存の現状
- (4) 文化財活用事業の現状
- (5) 資料館新設への動き

- 平成11年に生駒市郷土資料館が閉館し、それまで館で所蔵していた文化財や発掘調査で出土した埋蔵文化財などから成る所蔵文化財の保存管理が急務となった。また、市民による郷土の歴史文化を見つめなおそうという動きや、生駒について知りたいというニーズが高まったため、新たに郷土資料館を新設することとなった。
- 現在、生駒市で所蔵している文化財は、民俗文化財1,200点、埋蔵文化財400箱、古文書80箱などがあり、生駒市内の小学校4校内の5教室分と、貴重な資料については、芸術会館美楽来内の温度・湿度調整が可能な収蔵庫に分散して所蔵されている。
- 厳しい行財政運営の中、文化財を保存・公開する施設が必要であるのかなどが生駒市郷土資料館新設検討委員会（平成17年11月～平成18年3月）で多角的な分野から検討された。その結果、市民が郷土愛を育み、未来の都市像を展望できる場の創出が必要であるとされ、郷土資料館の新設が望まれている。

山崎町旧郷土資料館（現在救急施設）



## 2. 資料館新設の試み

- (1) 委員会のコンセプトからの出発
- (2) 「登録有形文化財 旧生駒町役場庁舎」

- 生駒市郷土資料館新設検討委員会が提言したコンセプト  
「過去・現在・未来 - 「いのち」 がつながっている」、「生駒山」、「源流 - 竜田川と富雄川から

生まれた文化 - 」、「道 - 街道と軌道 - 」、「常に新しい試みに挑んできたまち」からの出発を目指している。

- これまで中央公民館別館として利用されてきた旧生駒町役場庁舎の郷土資料館への転用を進めている。この建造物は平成 22 年 4 月 28 日に「登録有形文化財 旧生駒町役場庁舎」として登録有形文化財に登録された。

旧生駒町役場庁舎 正面



### 3. 資料館の機能 ～市民参加の資料館をめざして

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| (1) 収集保存            | (5) 体験学習           |
| (2) 調査研究            | (6) 情報発信「生駒市を知る拠点」 |
| (3) 登録有形文化財（建造物）の活用 | (7) 市民参加           |
| (4) 展示              |                    |

- 生駒市で所蔵している文化財をすべて資料館に収蔵するのは、現状のスペースでは難しく、選別して展示収蔵しなければならない。置くだけでなく、伝えることが大事だということをアピールするために、展示以外にも体験学習などを通して、文化財を収集保存することは価値ある行為であるということを市民に理解される必要がある。
- 生駒の歴史文化に興味を持ち、学ぼうとする利用者のために所蔵している古文書や図書資料を閲覧できるようにすることが必要である。また、市民や利用者が研究した成果を自由に投稿し、表現できる場を設けることも生涯学習の推進につながる。
- 生駒市の歴史文化の歩みがひと目でわかる常設展示は、ビジターや郷土学習を志す人々にとって不可欠である。そのために生駒とのつながりが深く、全国的にも有名な行基を展示のキーワードとしたり、優秀な展示品を展示するための設備を整えることも必要である。
- 世代を超えて学び遊ぶことが有意義であり、子どもから高齢者まで受け入れられるようにするのが資料館の果たす役割である。実際に道具を使っの体験学習や、ワークショップを行うことで、昔の人の知恵や苦労をイメージしたり、今の暮らしや社会を見つめ直すことができる。
- 資料館を発信拠点として館外の施設も利用し、生駒市全体を博物館と位置づけてネットワーク化を図る。

## 4. 資料館の運営

- (1) 運営のあり方(市民力を活かすために)
- (2) 指定管理者制度の導入と課題
- (3) 運営資金について
- (4) ボランティアの育成・確保
- (5) みんなのためにみんなでつくる

### 指定管理者制度の導入に際しては・・・

- ◆ 「みんなでつくる博物館」として市民が運営に参画することも有意義だが、全てを自主的に運営することは難しい。また指定管理者制度を導入する場合でも、市民の理解を得ながら、経費の抑制に努めて長期的に継続でき、来館者が楽しめる施策を考える必要がある。
- ◆ 広く提案を集めることのできるプロポーザル方式で指定管理者制度を導入することで、郷土資料館をにぎわいと文化財の保存が両立した良い施設にできる提案を得られることを期待する。
- ◆ また、文化財の取り扱いなどを含めて、研究部分においても学術的にレベルの高い集団でなければならず、受託する団体・企業数は稀少となる恐れがある。
- ◆ 運営資金の収集をおこなうとともに、郷土を大切にしたいと思わせるような魅力的な施設にしていく努力が必要であり、市は運営に関わり資金面でのサポートを備える必要がある。

- 市民によるボランティアグループを作るとともに、その活動の受け皿となる組織を作り、みんなで資料館を支える仕組みを作る。
- 資料館を「みんなのためにみんなでつくる」ために、開館することをネットや広報、報道などで広く知らせ、市民にとって親しみやすい施策を実行していくべきである。

ワクワグドキ土器！？はっくつこま 2010 状況(芸術会館)



## 5. 基本設計に対しての意見

- スペースが限られているため、可動式倉庫等を設置し収納力を向上させる。
- 展示品への影響を考えた展示スペースを確保する。



- 利用者が気軽に使える図書資料室や作業体験室、研修室を設ける。
- ライフサイクルコストを考えたうえでの維持管理費の低コスト化を図る。
- 全体的なスペースの不足、作業体験室の利用方法、人の導線、排水等の建物への影響、別途倉庫の設置などの課題が残る。

旧生駒町役場庁舎内 会議室(現 市民ホール別館)



#### まとめにかえて～郷土資料館に寄せる夢～

- 子どもからお年寄り、障がい者の方まで無理なく利用できるよう、設計から企画に至るまでユニバーサルデザイン仕様にするべきである。
- 生駒市にとって、資料館の新設・運営に市民参加を目指し進めていくことは前進であり、生駒の歴史にも記すべき出来事といえる。
- 資料館でおこなわれる企画や空間で、歴史文化という情報を通じて文化財に対する保護意識や地域愛、郷土愛が育まれる施設となるよう努めるべきである。

